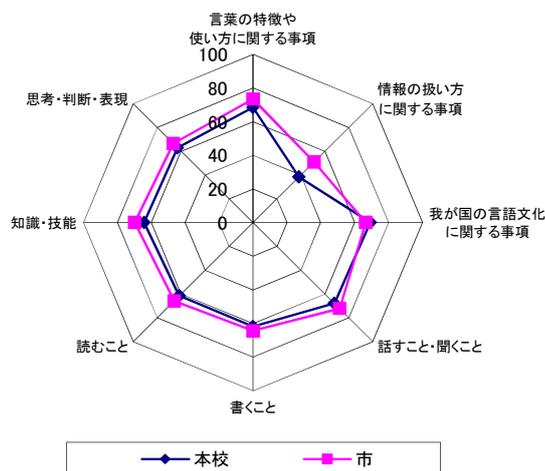


宇都宮市立清原東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 68.5 | 73.5 | 74.4 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 38.5 | 51.0 | 51.5 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 69.2 | 66.5 | 68.8 |
| | 話すこと・聞くこと | 67.9 | 72.3 | 73.7 |
| | 書くこと | 61.9 | 64.3 | 66.6 |
| | 読むこと | 61.5 | 65.8 | 64.9 |
| 観点別 | 知識・技能 | 64.3 | 69.8 | 70.8 |
| | 思考・判断・表現 | 62.9 | 66.5 | 67.3 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

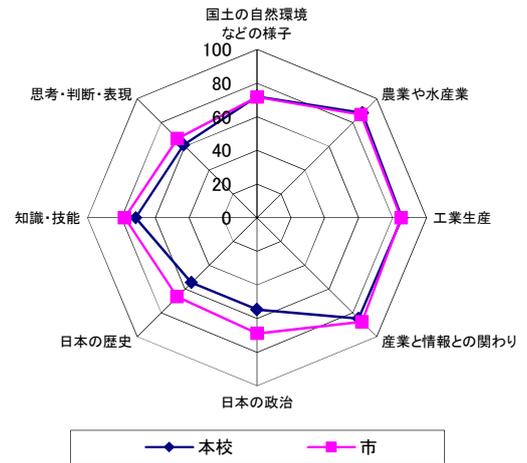
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-----------------|--|--|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は市の平均正答率より低い。 ○文と文との接続の関係についての設問では、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ●文章の中で文脈に沿った漢字を適切に使う設問では、市の平均より2.2ポイント下回っている。 | ・漢字にはそれぞれに意味があることを理解させ、意味を考えて使うことを身に付けさせていく。同音異義語の学習を丁寧にを行い、自主学习等の場を活用して自分で調べる意欲や関心を高める機会を意図的に設けていく。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 平均正答率は市の平均正答率より低い。 ●情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問では、市の平均を12.8ポイント下回っている。 | ・読み取りを行う際には、文章の中の大切な言葉(キーワード)や大切な文(キーセンテンス)に印をつけながら読み進めさせる。大体の内容をとらえる力を育成し、要約の力につなげていくことで情報の活用力を高める。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 平均正答率は市の平均正答率よりやや高い。 ○第6学年に配当されている漢字を正しく読む設問では、ほぼ市の平均と同程度となっており、書く問題と比較すると良好な結果と言える。 ●第6学年に配当されている漢字を正しく書く設問では、すべての問題で市の平均より下回る結果となった。 | ・漢字の定着に課題が見られる。新出漢字を練習する際に、丁寧に、正確に行う習慣をもたせること、ふりがなを書かせること、同じ熟語で何行も練習するばかりでなくドリルの例文等を活用し同じ漢字を使う他の熟語も意識させていくこと、等児童の習得度や意欲に合わせ励行していく。 |
| 話すこと・聞くこと | 平均正答率は市の平均正答率よりやや低い。 ○意図に応じた質問を工夫する設問では、市の平均より1.8ポイント上回っている。 ●話の内容を捉えながら聞き取る設問では、全ての問題で市の平均を下回った。 | ・様々な授業での話し合いの内容や、友達のスピーチを聞き取ることを通し、質問の内容を工夫する力を育てる。 |
| 書くこと | 平均正答率は市の平均正答率よりやや低い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことについては、市の平均より4.1ポイント上回っている。 ●指定された長さで文章を書いたり、自分の意見とその理由を明確にして書いたりすることについては、市の平均と同程度だった。 | ・視写プリントに取り組みせたり、作文の学習の推敲作業を行う中で、文章を書くときに必要な基本的な力を育成していく。週末の日記や短作文の課題を通し、自分の意見やその理由を表現する力を向上させていく。 |
| 読むこと | 平均正答率は市の平均正答率よりやや低い。 ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる設問では、市の平均より13.3ポイント下回っている。 | ・文章の構成を捉えたり、登場人物の心情を考えたり、描写に目を向けて場面の変化を読み取ったりする学習を継続していく。共有の場面では、友達と意見を聞き合ったり、感想を交流させる活動を意図的に取り入れる。 |

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|--------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 72.1 | 71.6 | 69.6 |
| | 農業や水産業 | 88.1 | 86.7 | 83.7 |
| | 工業生産 | 85.5 | 85.0 | 79.5 |
| | 産業と情報との関わり | 84.9 | 87.7 | 77.4 |
| | 日本の政治 | 54.7 | 68.9 | 71.7 |
| | 日本の歴史 | 54.7 | 66.7 | 66.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 71.6 | 78.0 | 76.7 |
| | 思考・判断・表現 | 61.3 | 66.4 | 63.1 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

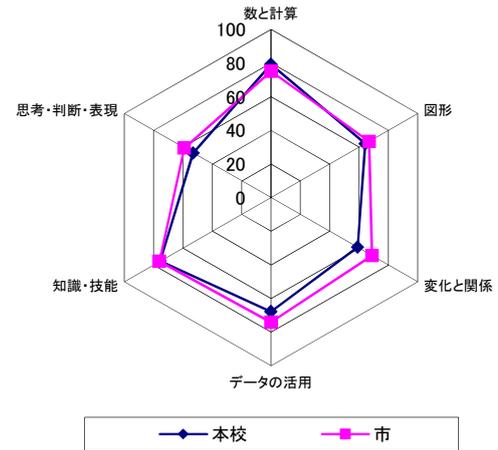
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------------|--|---|
| 国土の自然環境などの様子 | 平均正答率は市の平均正答率と同程度である。 ○日本の主な地形(湖)の名称の理解を問う設問では、市の正答率を3.4ポイントと、やや上回った。 ●国内の林業が抱える課題について考える問題では、市の正答率より6.9ポイント下回っている。 | ・日本の地形については理解できている。基礎的な事項については引き続き補充プリントなどで定着を図る。林業についての学習は、図などの資料と合わせて視覚的教材で補助しながら理解させていく。 |
| 農業や水産業 | 平均正答率は市の平均正答率と同程度である。 ○米の生産の工程についての理解を問う設問では、市の正答率より7.1ポイント上回っている。 ●水産物の流通の工夫について、資料を基に判断しているかを問う設問では、市の正答率を3.3ポイントと、やや下回った。 | ・農業についてはよく理解できている。引き続き、農業や水産業などの食料を確保する重要な役割の1次産業について、地図や資料、一人一台端末などを活用して調べ学習を進め、知識の定着を図っていく。 |
| 工業生産 | 平均正答率は市の平均正答率と同程度である。 ○自動車の製造工程についての理解を問う設問では、市の正答率を3.2ポイントと、やや上回った。 ●日本の工業の特色について、資料を基に表現する問題では、市の正答率を3.6ポイントと、やや下回った。 | ・自動車産業については理解できている。引き続き、日本の工業の特色について、地図や資料、一人一台端末などを活用して調べ学習を進め、知識の定着を図っていく。 |
| 産業と情報との関わり | 平均正答率は市の平均正答率よりやや低い。 ●情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の正答率を3.6ポイントと、やや下回った。 | ・情報化社会の中でそれぞれの産業でどのように情報が活用されているか、資料や一人一台端末などを活用して調べ学習を進め、知識の定着を図っていく。 |
| 日本の政治 | 平均正答率は市の平均正答率より低い。 ●天皇の地位についての理解を問う設問では、市の正答率より10.2ポイント下回っている。 ●内閣の働きについての理解を問う設問では、市の正答率より27.3ポイント下回っている。 ●国民と国会と内閣の関係についての理解を基に、図を読み取る問題では、市の正答率より18.4ポイント下回っている。 | ・政治の仕組みについては、身近な問題とそれにかかわる行政とを関連させて学習を進めるなどする。また、図や資料をよく読み取らせるなどして、資料を活用する能力の育成を図る。 |
| 日本の歴史 | 平均正答率は市の平均正答率より低い。 ●縄文時代の生活の様子についての理解を問う設問では、市の正答率より16.5ポイント下回っている。 ●源平の戦いの理解を基に、資料を判断する問題では、市の正答率より18ポイント下回っている。 ●大王についての理解、書院造の特徴についての理解、江戸幕府の鎖国の窓口についての理解を問う設問では、市の正答率より12～13ポイント下回った。 | ・歴史上の出来事や重要な人物、文化などの基礎的な学習事項などについて、資料集や年表などで系統させながら、時代毎に押さえて知識の定着を図っていく。 |

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 79.2 | 75.1 | 75.8 |
| | 図形 | 64.2 | 66.8 | 68.3 |
| | 変化と関係 | 59.0 | 68.8 | 65.0 |
| | データの活用 | 67.9 | 74.1 | 63.6 |
| 観点別 | 知識・技能 | 75.5 | 76.1 | 75.8 |
| | 思考・判断・表現 | 53.1 | 59.0 | 51.7 |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

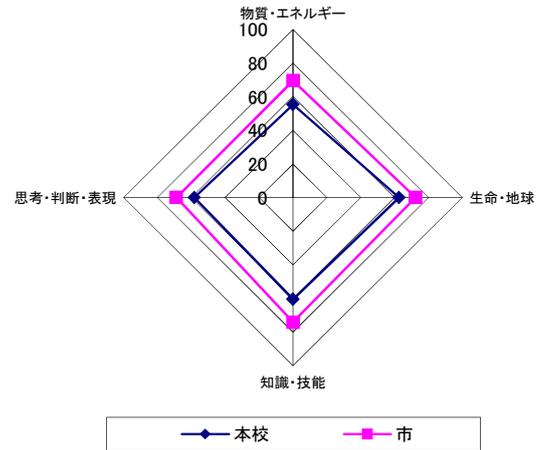
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|--|---|
| 数と計算 | <p>平均正答率は、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○分数や小数の乗法・除法の計算は、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>○5・6学年の内容を満遍なく学習出来ており、基礎的な計算力が付いてきている。</p> <p>●文字式において、実際の数値を求める応用問題に課題がある。</p> | <p>・授業内での復習や計算オリンピックの成果が出ており、正確に計算する力が付いてきているため、文章問題などの応用問題に重点を置いて指導していく。</p> <p>・問題で問われていることを視覚的に理解できるように、ICTを活用したり、数直線を用いさせたりし、工夫するよう指導していく。</p> |
| 図形 | <p>平均正答率は、市の平均正答率よりやや低い。</p> <p>○三角形の角度の和について理解し、外角を求める問題や作図においては、市の平均正答率よりやや高い。</p> <p>●図形分野においては、基礎的な内容は市の平均と同程度であるが、活用の内容は市の平均を大きく下回っている。</p> | <p>・図形の計算などはできる児童は多くなっているため、展開図や体積を求める、多角的・多面的に図形を理解する力をつける必要がある。そのため、実際に多面体を用意し、様々な角度から捉える活動を取り入れるなど、工夫して指導していく。</p> <p>・面積や体積の問題に取り組む機会を増やし、正確に計算する力を育てるよう指導していく。</p> |
| 変化と関係 | <p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>●割合を用いた問題は、どの問題も市の平均正答率より低い。</p> <p>●特に、基準量と比較量から実際に割合を求める問題に課題がある。</p> <p>●表されている実際の数値をもとに考察することに課題がある。</p> | <p>・どちらの値が基準量で比較量なのかを間違えている児童が多いため、実際に文章題を扱う際に、その都度基準量と比較量を明確にする板書をしていく。</p> <p>・割合を視覚的に表すグラフを読み取らせるだけでなく、実際に書く機会を設けることで、客観的にデータや割合を捉える力を育む。</p> |
| データの活用 | <p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○平均値を求める問題は、市の平均正答率をやや低い。</p> <p>●問題の場面を理解し、求める答えの過程を書く記述式の問題に大きな課題がある。</p> <p>●中央値や最頻値の違いを理解しておらず、間違った解答をしている児童が多い。</p> | <p>・記述式の問題に課題があるため、一問一答形式だけでなく、過程を書かせる機会を設ける。</p> <p>・中学校でもデータの見方に関する問題に取り組む機会を有するため、現段階で学んだ知識を再確認し、復習する機会を設けるとともに、問題に取り組めるよう指導していく。</p> |
| | | |
| | | |

宇都宮市立清原東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|----------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 55.3 | 69.5 | 65.2 |
| | 生命・地球 | 62.6 | 72.3 | 70.1 |
| 観点別 | 知識・技能 | 60.4 | 74.0 | 70.7 |
| | 思考・判断・表現 | 58.2 | 68.7 | 65.5 |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|--|--|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○「ふりこのきまり」の、ふりこの1往復の動きを答える設問では、正答率が7割を超えていた。</p> <p>●「物の燃え方」の設問では、気体の体積の割合を正しく理解しておらず、市の平均正答率より24.6ポイント下回った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を活用するなどして、繰り返しドリル学習に取り組みさせることで、基礎基本の確実な定着を図っていく。 実験や観察から分かったことを整理したり、振り返ったりする活動を通して、実感を伴った理解を深めていく。 |
| 生命・地球 | <p>平均正答率は、市の平均正答率より低い。</p> <p>○「流れる水のはたらき」の、山の雨量と下流の水位の関係をグラフから読み取る設問では、市の平均正答率を上回った。</p> <p>●「動物のからだのつくりとはたらき」の設問では、人の体の器官のはたらき等の理解が不十分であり、市の平均正答率を大きく下回った。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容に定着のあいまいさを感じ取れるため、一人一台端末を活用して、長期休業や週末にドリルに取り組みさせる等、繰り返し学習を行わせることで確実に定着させていく。 実験・観察の結果から分かったことを個々に記述させ全体で共有する活動を丁寧に行う。この活動を積み上げることで、理科用語を使って答える力、見た事象を表現する力を養っていく。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

宇都宮市立清原東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|--------------------------------|---|---|
| 基礎的・基本的な学習を身に付け言語感覚を豊かにする指導の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字計算オリンピック、朝の学習等の工夫による基礎・基本の定着 言葉に着目させる問いかけの工夫と効果的な言語活動の設定 一人一台端末を活用した反復練習を行い、漢字や語句の理解や計算力をつける。 | <ul style="list-style-type: none"> 国語では漢字を正しく読む問題はできるが、漢字を書く問題には課題が見られた。 情報を読み取り、目的に応じて文章を書く問題に課題が見られた。 算数の「数と計算の」の領域では、市の平均を上回る結果となった。授業内での復習や計算オリンピックの成果と思われる。 |
| 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 課題解決の意欲をもたせる導入の工夫 言葉に着目させる問い掛けと効果的な言語活動の設定。 全児童における「つなぐ言葉・ふりかえりの言葉」カードの活用と表現力の向上。 一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い。 | <ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に過ごすことは楽しいと答えている児童の割合は多いが、学年が上がるにつれ、自分の考えを話すことに対し苦手意識をもつ児童の割合が増えている。 |

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・視写に取り組ませたり、国語辞典、漢字辞典を活用し語句を増やしたりすることにより、基礎基本の力を養う。
- ・児童が見通しをもち意欲的に取り組めるよう、導入を工夫する。
- ・教科において言語活動を充実させ、表現力の向上を目指す。
- ・対話的な活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。
- ・自主学習を計画的に取り組めるよう、「家庭学習の約束」や「家庭学習のすすめ」を配付し、家庭学習の啓発をする。
- ・漢字計算オリンピックに合わせて家庭学習の充実を図り、児童の学習への意欲を高められるよう、家庭との連携を図る。